姉のくらしやすい世の中について

私の家は、いつもにぎやかです。二つ年上の姉がとても元気だからです。私の姉は特別支援学校で勉強する六年生です。言葉はまだ話せないけれど、いつも何か独り言を言っていて、とてもにぎやかです。

私が、姉のことを少し分かり始めたのは、ごく最近のことです。

小さい頃、私は姉の行動が不思議で理解できませんでした。夜中の三時頃まで寝ずにさわいでいたり、突然いなくなってしまったり、あぶない所に登っていたりすることが日常だったからです。

けれど、私の姉は家族の人気者です。私も姉が大好きです。周りの人から見れば、私たち家族のことを「大変そう」とか「かわいそう」と思うかもしれません。

私も姉がいなかったら、障害のある人との関わり方を知ることはなかっただろうし、考えるきっかけもないままだったと思います。

私の姉は、言葉は話せないけれど、絵カードや写真で自分の行きたい場所や欲しいものを伝えてくれます。私も、姉に何か伝える時は、絵カードを伝って目を見ながらゆっくり伝えるようにしています。これは、初めから出来たわけでなく、お母さんが勉強会に行き、絵カードを使いこなせるようになるまで訓練したからだそうです。姉のように、言葉を使うことが出来ない人でも、自分の意思を伝える手段があるということはすごいことだし、この方法を考えた人もすごい人だと私は思います。

世の中には、様々な障害を持つ人がくらしています。姉の通っていたりょう育園や、支援学校でもいろんなお友だちに出会ってきました。そして、その子たちに必要ないろんな工夫があることを知りました。

私は、姉が将来お母さんやヘルパーさん無しでもくらしやすいぐらい、すごしやすい世の中になっていればいいなあと思います。そのためには、障害のある姉のような人のことを、もっとたくさんの人に知ってもらうことが必要だし、公共の場に点字の支援があるように、絵カードやイラストを使った知的障害者向けの視覚的な支援も行うことが当たり前の世の中になってほしいと思います。